

# 介護老人保健施設オアシス 21

**症 例 概 要**      利用者:90代前半 女性      要介護 4 B2-Ⅲb

利用期間:令和元年 12 月      レスパイトとリハビリ目的でオアシス 21 認知症専門棟  
に入所。

疾患:アルツハイマー型認知症、腰部脊柱管狭窄症、神経因性膀胱、高血圧症、

経過:トイレに座っていても「トイレに行きたい」と話されることもあるほど、トイレが頻  
回な利用者さん。目標の設定と工夫、声掛けで執着が改善。転倒リスクも減り、生  
活リズムも整い、生活の質向上が出来た症例。

## 内 容

---

当初、3ヶ月の入所予定でありましたが、入所前からトイレの訴えが頻回で、通われていたデイサービスでもトイレに座っていても「トイレに行きたい」と話すこともあったということでした。

入所後も変わらず、日中は常にトイレが気になり、5分でまたトイレに向かう状況。もちろん介助に入りますが、空振りになることがほとんどで、「少し時間を置いてから行きましょう」との声掛けにも興奮する場面もみられることがありました。いつの間にか一人でトイレに向かわれ転倒をされたりするため入所期間も長くなっていました。

そこで目標を

- ①30分待ってられる。
- ②自分で出来る。
- ③日中はリハビリパンツから綿パンツにレベルアップ

としました。

①に対し排泄チェック表に時間を記載し、スタッフ全員がトイレに行った時間を把握。ご本人のテーブル席に、「次にトイレに行く時間は〇〇時です。」と書いたボードを設置。「次は〇〇時ですね」と声をかけ続けました。30分後にトイレ誘導した際には「待ってくれてありがとう」との声掛けも忘れずに行いました。

②には、排泄時はふらつきが強かったためズボンの上げ下げを介助で行っていたものを、リハビリ訓練でふらつきは軽減。生活リハビリとして近くで見守りながらズボンの上げ下げが出来るようになりました。

③は頻回なトイレは減りましたが、まだ通常よりは多くあった。しかし、失禁はなかった為、日中は綿パンツに変更。

トイレの執着が軽減したことで生活リズムが整い、今までできなかったタオルたたみや職員との会話に笑顔が見られるようになり、また、夜間はセンサーマットも外すことができました。

このようにオアシスに入所したことにより生活の質が向上し笑顔が増えたことからキラキラ介護賞に推薦いたします。